

## 領域 12 インフォーマルミーティング議事録

日時：2025 年 3 月 18 日（火）18:00-19:00

場所：オンライン（Zoom）

司会：栗田玲

書記：水口朋子

### <報告事項・承認事項>

#### 1. 次期領域運営体制の確認

次年度の体制について、以下の内容を確認した。

領域代表 山口毅（名古屋大学）2025/04-2026/03

領域副代表 藤崎弘士（日本医科大）2025/04-2026/03

次期領域副代表 野口博司（東大）2025/04-2026/03

#### 運営委員

ソフトマター 横田宏（都立大）2024/10-2025/09

武仲能子（産総研）2025/04-2026/03

化学物理 森義治（慶應大）2024/10-2025/09

末松安由美（西日本工業大）2025/04-2026/03

生物物理 江端宏之（九大）2024/10-2025/09

井上雅世（九工大）2025/04-2026/03

#### 2. 次期領域運営委員の承認

次期運営委員について、以下の案が承認された。

ソフトマター 佐久間由香（東北大）

化学物理 笠原健人（阪大）

生物物理 大村拓也（北大）

任期はいずれも 2025/10-2026/09

#### 3. シンポジウム、招待講演の提案

九大の秋山さんから分光関係のシンポジウムの提案があった。

引き続き提案を募集する旨の案内があった。

#### 4. 計算物理領域について

新設する計算物理領域について、以下の説明がなされた。

- ・来秋の第80回年次大会から3年間の試行期間に入る
- ・全ての講演を合同セッション扱いとする
- ・合同セッションテーマは「高性能計算」「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の3つを検討しており、各領域で3つのテーマとの合同領域の希望有無を調査したいとのこと

上記3つ目の議題について、領域12からは以下の通り返答することにした。

- ・3つ全てのテーマとの合同領域を希望する

当該議題について、以下の意見が出された。

- ・領域12での講演を希望する場合は領域12を主領域として選ぶようにML等でアナウンスするのはどうか

#### 5. 物理学会からの連絡

物理学会からの連絡として、以下の事項が周知された。

- ・2026年9月に行われる物理学会80周年記念国際シンポジウムの案内
- ・オンライン大会でのZoom字幕機能導入についての意見募集
- ・オンライン大会でのポスター発表形式の見直しについての意見募集

上記3つ目の議題について、以下の意見が出された。

- ・領域12はオンラインでのポスター講演数が少ないので全て口頭でいいのではないか
- ・2時間くらい滞在して好きな時に議論する形式にする → 聞きに来る人がいないと辛い
- ・ポスターでなく普通のスライドで話していると途中から加わりにくいいため、事前に発表資料が見られるとよい → 現在もポスターは事前提出で発表前に閲覧できる
- ・事前提出された資料が実際の発表資料と異なる場合があつて参考にならない場合も多い
- ・事前提出の締め切りが1週間前なので、学生は成果が不十分で提出しにくいかもしれない。口頭だと直前まで準備できるので、オンラインポスター発表の人气がない一因かも。

以上の意見をまとめ、領域12からは以下の通り返答することにした。

- ・形式は変えた方がいい
- ・事前に発表内容が分かると望ましい

#### 6. 年次大会における学生優秀賞の変更について

次回の年次大会より、以下のとおり変更することを確認した。

- ・ソフトマター、化学物理、生物物理でそれぞれ学生賞セッションを作る。人数が少なけれ

ば同じセッションで連続して行う。

- ・学会の発表申し込み締め切り前に、領域代表に学生賞申請を提出する。
- ・対象は物理学会員のみと強調する。

#### <審議事項>

##### 1. 学生優秀賞の申請方法の変更案

以下の変更案について審議を行なった。

- 1)概要は学会への提出のみとし、代表への送付はなしとする
- 2)事前審査は行わず、申し込みがあれば全て受け付ける。
- 3) google form などでの web 申し込みを実施する。申し込み内容案は以下のとおり。
  - ・申請者の氏名・所属・学年・メールアドレス、共同発表者の氏名・所属・メールアドレス、講演タイトル、講演アブスト（200字）
  - ・共同発表者全員と指導教員の同意を得ていますか？のクリック
  - ・申し込み時に発表できる成果が得られていることの確認クリック  
(見込み発表は認めない)
  - ・発表履歴（他学会を含む）や業績リストの提出を求める  
(将来的に事前審査が必要になった場合のための情報収集、次回の審査には用いない)

上記案について、以下の意見が出た。

- ・申し込み人数が多いときのために、事前審査をすると記載しておいてはどうか。実際の申し込み人数が少ない場合は全員受け付ければよい → 事前審査をするならば審査基準を明記する必要がある。
- ・対象は物理学会員のみであることを明確にするため、申し込みフォームに会員番号の記載も求めてはどうか → 入会見込みの学生をどうするか？
- ・共同発表者の同意を得ているかの確認欄で、実際には同意を得ていないのに勝手にチェックする学生を防ぐため、「共同発表者に問い合わせることがあります」等の文を追記してはどうか。あるいは、共同発表者にも自動返信メールを送ることは可能か？
- ・受賞人数制限は設けるべきか？

上記意見交換の後、以下の事項を決定した。

- ・事前審査については次回の年次大会では行わない。今後については様子を見て検討する。
- ・申込者の会員番号の記入を求める。ただし、入会見込みも可とする。
- ・共同発表者にも申し込みの自動返信メールを送るようにする（可能であれば）。
- ・受賞人数に制限は設けず、申し込み人数等に応じてその都度決めることにする。

## 2. その他

以下の提案が出された。

- ・メーリングリストに変わる連絡媒体を考えてはどうか (slack など)

上記提案の背景は

領域 1 2 は 3 つの ML に分かれているので管理が面倒であること

gmail に送ると弾かれること

などである。

以下の意見が出された。

- ・ slack 無料版は 3 ヶ月でメッセージが消えてしまうし、有料版は金額の問題がある。
- ・ 3 ヶ月以上前の情報は必要ないのでは？
- ・ slack を ML 代わりに使うと登録人数が膨大になる。

上記提案に関連して、生物物理 ML は現在動いていない疑いがあるので、新しく作れそうか調べることになった。